

母校のホームページをチェック!



冷田小学校が、足助地区おいでんまつりに出場し、みごと第3位入賞!



大蔵小学校3・4年生が、本城探検「ひみつきち作り」の発表会



平泳ぎ

新盛小学校 青いプールで水泳検定「校長室だより」より

足助の中学校・小学校のホームページでは、学校生活の様子が積極的に発信されています。その中からいくつかの記事を紹介します。みなさんも是非、母校の様子をチェックしてみてください!!

あすけ通信ブログに小学校・中学校のホームページリンクを集めたページを作成しました。右のQRコードからアクセスできます。また、あすけ通信ツイッター(@asukenet)では、小中学校ホームページの更新情報や、足助に関するブログ記事の紹介をしていますので、足助情報のチェックに役立ててくださいね!(た)



足助の秋のイベント

2012お宝体験隊(足助の町並み商店街)

9月30日(日) 午前8時30分~
テーマ「足助の町並み再発見」、100年前の写真をヒントにクイズに答える。足助だんご作りなど。要事前申込み。
申込・問合せは9/18までに足助商工会(62-0480)

足助まつり(足助八幡宮、足助の町並み一帯)

試楽祭 10月13日(土) 本楽祭 10月14日(日)

あすけ夢里まつり(三州足助屋敷前広場)

10月21日(日) 午前10時~
日々の生活に「夢」ある仲間たちが手がける、ものづくりを中心とした暮らしの「まつり」。

足助地区ふれあいまつり

同時開催 足助商工まつり(足助交流館周辺)

10月28日(日) 9時30分~
足助地区的活動団体による芸能発表、バザー、イベントなど。商工まつりでは、青空市、おいでんプロレス、大抽選会を開催。

一編集後記

これまでに、「あすけ通信」のことを矢作新報(7/27)、中日新聞(8/10)、中部経済新聞(8/14)の誌面に掲載していただきました!また、市政番組「とよたNOW」(ひまわりネットワーク(地元ケーブルテレビ)で放映)の「とよた山里暮らし通信員」を紹介するコーナーでも話題にしてもらっています。この活動に興味を持ち、取材してくださったことに感謝しております。これからも、「あすけ通信」のことを広く知ってもらうために、PR活動に努めたいと思います。

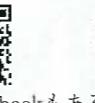
インタビューのやりとりの中で、「出身地からこういうものが届いたらすごくうれしいと思います。」と言ってくださった方が何人もいらっしゃいました。足助出身の人たちに、そう思ってもらえるよう進めていけたらと思っています。

新聞等、メディアへの掲載情報は、「あすけ通信ブログ(<http://asukenet.boo-log.com/>)」の「ニュース」カテゴリで紹介していますので、こちらも是非ご覧くださいね!!(た)

あすけ通信/vol.2

あすけ通信メルマガ版

*無料メールマガジンのため、オフィシャルマガジンが配信されることがあります。ご不要の方は右側QRコードにアクセスして解除してください。



☆Blog、Twitter、Facebookもあるよ!!☆



あすけ通信

香嵐渓もみじまつり(香嵐渓広場など)
11月1日(木)~12月2日(日)開催。11月10日(土)からは、日没~午後9時まで飯盛山のもみじをライトアップ。

足助の町並み 芸術さんぽ
同時開催 あすけうちめぐり
11月10日(土)~11月18日(日)
足助の古い町並みと現代アートのコラボ。同時開催のあすけうちめぐりでは、普段見ることの出来ない屋敷の内部を公開。

てっぺん祭り(椿の里)
11月上旬開催予定
恒例の梅干種飛ばし、泥縄競争など楽しめる企画が盛りだくさん。

ふれあいフェスタ冷田(冷田小学校グラウンド)
11月18日(日) 9時~
三州足助太鼓、煌の演奏。恒例の冷田ウォークなど。

お品書き
—あすけから—
あすけ通信記者が「たんころりんの夕涼み」を歩きました。

—あすこ紹介—
今回は、広瀬重光刃物店7代目の広瀬友門さんを紹介します。

—則定自治区盆踊り大会—
則定自治区盆踊り大会の様子です。あなたは、今年の夏は地元の盆踊りに参加しましたか?

—あすけ通信読者増加中!!—
あすけ通信の読者が、現在着々と増加しています。あなたはもう登録しましたか?

—母校のホームページをチェック!—
足助地区の小中学校はホームページで積極的に情報を発信中です。みんなでチェック!!あなたの母校はどうなっていますか?

—足助の秋のイベント—
足助は秋もイベント盛りだくさん!!親子で、友達で、一緒に地元で遊ぼう!!

足助から

足元に店先にも民家にも

足助にはあんない光があた

音楽が足音が笑い声が響く人のこむするあ、たけい光

2012年8月4日たぬきの夜

現在
二十九歳
一九八三年生
(ひ)



則定自治区 盆踊り大会

8月の上旬に足助の各地区で盆踊り大会が開催されました。8月4日(土)に行われた則定自治区盆踊り大会では、浴衣姿の子どもたちからお年寄までが集い、則定音頭をはじめ、炭坑節、河内おとこ節、ドラえもん音頭などをみんなで楽しく踊りました。則定自治区長の柴田則義さんは、「なんにしても、子どもが多いというのが一番うれしい。ということは、そのお父さんやお母さんもおるということだから。」と、若い人たちが子どもたちを連れて参加してくれることを大変喜んでいらっしゃいました。

やぐらの上では、毎年この日のために帰省するという人を含めて10代~40代の若者が太鼓打ちとして活躍してくれました。三州足助太鼓やバンドのドラム経験者も腕を振るい、会場は大いに盛り上がりました。(た)



あすけ通信 読者増加中



あすけ通信の読者登録数が順調に増加中です。登録数がナント3桁に到達しました。これも皆様のおかげです。卒業時の住所へ送付したため親御さんにおかれましては、子どもさんへのご連絡ありがとうございました!また、同窓会でPRしていただいた第42回卒業生の皆さんご協力ありがとうございました!!

さて、読者登録についてご質問を多くの方からいただいております。「足助地区内に住んでいれば登録しないといいの?」

お答えします。「ぜひ、登録してください!!」現在は全戸配布を行っていますが、来年度から回覧に変更する予定です。回覧ではなく、手元に置いておきたい方は、下記の電話・メールにて是非ご登録をお願いします。

予想以上の読者登録に嬉しい悲鳴をあげているあすけ通信ですが、感想まで送っていた

だくという更に嬉しい事態も!!頂いた感想の一部をここで、ご紹介させていただきます。

「加藤泰幸くんが活躍しているのを見て嬉しく思いました。次号も楽しみにしてます!」

ありがとうございます!!これからも、どしどし「あすっこ」を紹介して参りますので乞うご期待!!

「このような通信ができ「足助」はやはりいいなあと思いました。いつも大切にしたいふるさとです。」

こういう皆様の「ふるさとへの想い」「あすけ通信」を通じてもっと深まれば幸いです。

「子どもが生まれたのですが、足助の今の学校の情報がほとんどないで、移住を悩んでいます。なので学校の情報などほしいです。」

学校の情報もこれからどんどん取り上げていく予定ですので、よろしくお願いします。

あすけ通信は、皆様のご意見・ご感想を取り入れてどんどんパワーアップする予定です。ご意見・ご感想をどしどしお寄せください!! (け)

☆ご意見・ご感想・登録などはこちら☆

あすけ通信事務局(市役所足助支所内)

電話: 0565-62-0601

Email: asuketsushin@city.toyota.aichi.jp



二人目

広瀬重光刃物店七代目
広瀬友門さん

ひろせ ゆうと

あすっこ紹介



高校の時はむしろ興味がなかった。地元の大学卒業後、東京でライブハウスのバイトをしながら一年を過ごした頃、年行司(お祭りの役割のひとつ)の大役がまわってきた。足助に根差している者が足助祭りを司るのが本来の姿。鍛冶屋を継ぐこと根差すこと。東京暮らしへの未練はたっぷりとあったが、年行司への特別な思い入れと足助まつりの魔力に導かれるまま足助に戻ってきた。
「なんなんでしょうねえ。祭りは足助で住む上で根幹になっている。それがなかつたら帰つてることはなかつたし。」
下が育てば構成年齢層は下がる。四十になつても五十になつても上下関係はそのまま続く。いい意味での年功序列が自然と身についた。

祭りという幹に人のつながりという枝葉を蓄え、鍛冶屋という名の根をしっかりとおろした。鉈と下刈鎌は売れ筋の定番商品。他にも店先にはさまざまな用途の刃物が整然と並んでいる。槍鉈は現在国内で広瀬重光刃物店が扱うのみ。奈良の薬師寺金堂再建の際、宮大工に選ばれた名品の槍鉈である。店先には七代目が製作する槍鉈が誇らしげに刃先を輝かせている。

昭和二十七年、曾祖父と祖父が作った刀は日米講和記念の献上品として日本政府からアメリカ政府に渡された。刀鍛冶・農鍛冶・鎌を作る鍛冶職人・包丁を作る鍛冶職人など、本来は道具ごとに極める鍛冶の世界で、なんでも作れる鍛冶屋をめざすという七代目。偉大なる先祖の功績をいつか越してみせるという気迫が全身にみなぎっている。

奥様は同級生。ファーストコンタクトは六年生の時。小学校の閉校に伴い奥様が足助小学校に転入して出会った。中学校では三年間別のクラス。そして別々の高校に進学した後偶然同じ大学に入学。しかしキャンパス内で会つたのは一度か二度。卒業後足助の同級生で集まることが続き、恋の鐘が鳴った。この夏授かった「八代目」がかわいくてしかたがない。

「時代背景もあり、これからどんどん変わっていくと思うけど、自分だけはそういう気持ちを持ち続けたい。そうでないと足助のお祭りではなくなってしまう。ただ騒いでいるだけではないことがわかつてきいたら、お祭りにかかる人間の心の機微が見えてきた。足を踏み入れたばかりに抜け出す度胸がないだけかな。」
謙遜と誇りのあいまつた充実の笑みをたたえた。

